



## ご挨拶

専務理事 鈴木 眞生

当協会は、1990（平成2）年10月に前身のBL推進協議会を母体に社団法人として発足しましたが、機関誌である「ALIA NEWS」は1991（平成3）年1月に第1号を発行し、隔月刊で約17年かけて記念すべき100号を迎えました。

BL推進協議会当時の機関誌が、委員会議事録を中心とする“会報”スタイルであったのに対し、「ALIA NEWS」は、当時編集に当たられた方々の、新団体としての活動への情熱、情報発信への意欲により、全く装いを一新しました。その編集方針は基本的に今も引き継がれ、時々行政や関連機関の最新情報、また、住宅部品業界の皆様の関心が深いであろうと思われる各界の調査・研究レポート、業界動向や新技術・新商品の紹介を中心として盛り沢山の情報をお届けしており、本誌は、平成に入ってから住宅部品業界の関心、歩みをたどる資料としても意義があるのではないかと考えております。

さて、今回、100号を迎えるに当たり、各住宅部品の製造メーカーが横断的に集結した団体である当協会の特色を十分発揮しつつ、どのような内容で記念となるべき号を発刊するか、担当の広報部会そして編集委員会において熱心な議論が行われました。その結果、平成になってから設立された当協会の機関誌ではほとんど触れたことのない昭和の戦後以降約40年余も視野に入れ、住宅部品の開発が暮らしをどのように変えてきたかの視点から特集をとりまとめることと決定され、それぞれのパートの執筆も、有識者をお願いするのではなく、当協会に設置され、活動している各部品別委員会のメンバーが主としてあたり、総括を広報部会長が執筆することとなりました。供給サイド側から戦後住宅部品史を取りまとめようとする試みです。加えて、東京大学の松村教授には、より広い視野から玉稿をいただき、さらに（財）ベターリビングの方々には、昭和40年代半ば以降の住宅部品開発に大きな役割を果たしてきたBL基準の視点からコメントをいただきました。これらを併せてご覧いただくことにより、私たちの住生活に住宅部品の開発がいかに大きく関わってきたか、その戦後史が、より明瞭にご理解いただけるのではないのでしょうか。松村教授、ベターリビングの皆様、そして編集・執筆に当たられた会員各位に感謝申し上げる次第です。

折しも、昨年、住生活基本法が制定されました。「住宅建設計画法」から「住生活基本法」への名称自体が象徴するように、生活に深く関わる住宅や住環境の質の一層の向上に向かって、行政も住宅産業も新しい一歩を踏み出そうとしています。住宅部品産業も、住宅産業界の一員として、多様化・高度化する国民のニーズに応え、豊かな住生活を実現する技術の開発や普及に一層力を注いでいくことが求められておりますが、本特集は、今、私たちにとって当たり前となっている住空間や利便性の実現に果たしてきた住宅部品産業界の役割の大きさを、改めて当産業に関わる会員一同再認識し、私たちの使命の大きさを決意新たにしている内容となっているかとも思います。

今後とも、協会活動の一層の活発化を通じて、住宅部品産業の発展、ひいては国民の皆様の豊かな住生活の実現に貢献してまいりたいと考えておりますので、ご関係の皆様方には、引き続きご支援・ご協力方よろしくお願ひするとともに、感謝の気持ちを込めて記念すべき100号をお届けしますので、是非、ご一読くださるようお願いいたします。